

会 議 録

会議の名称	平成26年度 第1回 茨木市みどりの施策推進委員会
開催日時	平成26年11月26日（水）14時00分
開催場所	茨木市役所南館3階 防災会議室
議長	加我宏之（委員長）
出席者	岡田資子、山田俊一、赤澤宏樹、加我宏之、都解浩一郎、樋口禎久、 薬師寺徹、吉田宏司 (8人)
欠席者	福田知弘（副委員長）、池上千代枝 (2人)
事務局職員	鎌谷建設部長、上田企画財政部次長兼政策企画課長、 中崎農林課課長代理、松本環境政策課長、田邊都市政策課長、 上田建設部次長兼公園緑地課長
議題(案件)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 建設部長挨拶 3 委員紹介 4 委員長、副委員長の選出について 5 会議の公開及び会議録の公開について 6 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 緑の基本計画 現況と課題について (2) アンケート調査について 7 閉会
資料	資料1 茨木市みどりの施策推進委員会配席図 資料2 茨木市みどりの施策推進委員会委員名簿 資料3 茨木市みどりの施策推進委員会規則 資料4 茨木市附属機関設置条例 資料5 茨木市審議会等の会議の公開に関する指針 資料6 茨木市みどりの施策推進委員会傍聴要領 資料7 緑の基本計画の検討スケジュール 資料8 緑の基本計画の基本的事項 資料9 現行茨木市緑の基本計画の概要 資料10 茨木市緑の基本計画現況と課題の整理 資料11 上位計画策定過程での緑に関する市民意見 資料12 アンケート調査へのご協力とお願い

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 建設部長あいさつ</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 委員長、副委員長の選出について 【委員の互選により、加我委員が委員長に、福田委員が副委員長に決定】</p> <p>5 会議の公開及び会議録の公開について 会議は原則、公開とする。ただし、非公開とすべき案件が発生したときは、会議の非公開を決定することとする。会議資料については傍聴者へ閲覧する。 会議録については、要約したものを各委員が確認した後に公開する。会議録中の発言者の表示は「委員」「事務局」等として公表する。また、会議資料についても公開する。 【会議の公開及び会議録の公開について異議はなく、事務局説明のとおり決定】</p>
委員長	本日の委員会が成立しているか、成立条件を確認する。
事務局	委員 10 人のうち 8 人に出席いただいているので、委員会は成立している。
事務局	<p>6 議事</p> <p>(1) 緑の基本計画 現況と課題について (資料 7、8、9、10、11 について説明)</p>
委員長	<p>検討スケジュールについて、本日の委員会の検討項目は現状と課題、アンケートだが、「調査・検討作業」では、現在、基礎調査として事務局でデータ整理を行っている。この後、アンケート調査についての審議を予定しているので、本日は現状と課題をしっかりと見るというよりも、途中段階で皆さんにご意見をいただき、3 月にもう一度確認して、きちんと「今の茨木市における緑の課題は何か」ということを検討できればと思う。したがって、本日は皆さんからは生活実感に基づいて、また他都市の事例を含めてご意見をいただきたい。</p> <p>まずは検討スケジュール、それから緑の基本計画とは何かということについて、質問や意見があればご発言願う。</p>
委員	(質問、意見等、なし)

<p>委員長</p>	<p>資料 9、10 では本日の頭出しとして最終的に主な課題、茨木市の緑の特性をまとめているが、これについてご質問していただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>これまでの緑の沿革は、存在価値や場所の話を中心にまとめられているが、総合計画も踏まえて考えようとした場合、今、全国の緑の基本計画は「緑があるか、ないか」ではなくて、緑の質に踏み込んだ議論に入っている。関連計画も今までは、「関連がある」と横に書かれているだけで実際は関係のないことを書いていたり、スローガンですら他の関連計画とは整合していなかったりしたが、それが完全に合致させていくことも進んでいる。</p> <p>そういう中で、策定途中の第 5 次総合計画について記載があり、まちの将来像が挙げられている。</p> <p>緑の基本計画もその緑のあり方は、総合計画のまちの将来像を実現するためにあるものだと思う。市民が「こういう暮らしをしたい」という大きな目標を実現するためにどのような緑が必要か、人に踏み込む方が良いということである。一方では「何%確保する」「何ヶ所確保する」という計画も当たり前にするべきこととしてあるが、その上で人に踏み込むことが必要ではないか。</p> <p>まちの将来像の①は「ともに支え合い、健やかに暮らせるまち」で、健康や福祉の話だが、そういう視点で考えると、今、公園で一番に求められる機能は健康であり、公園の目標として位置付けが必要だと思う。</p> <p>②は「次代の社会を担う子どもたちを育むまち」。都市間競争で生き抜くためには、子育て世代を呼び込み、良い環境で子育てをし、長く住んでいただくことが必要だが、今までの公園は「キャッチボールはダメ」等が多いので、そのようなものをどう変換していくかまで踏み込むことが必要だと思う。</p> <p>③は「みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち」。「公園緑地をアートとして活用したい」という市民の意見が紹介されている。「緑があればよい」というのは、誰もがそう思うが、「どのようなことをしたいのか」と考えると、芸術や運動などが実際にできる緑、公園、緑地とはどのようなものなのかを考えることも必要だと思う。</p> <p>④は「市民・地域とともに備え、命と暮らしを守る安全安心のまち」。防災上も位置付けが重要視されており、安全上も環境防犯設計というものもある。ハードの整備だけでは防げず、まちづくりと合わせて緑を考えることが必要である。今、日本のまちは腰高の見通しの悪い緑ばかりであり、それらを間引いて管理費を削減する代わりに、再配置、再整備も含めて議論すると、4 番目のまちの将来像に活かせるのではないかと思う。</p> <p>総合計画のすべての「まちの将来像」に対して、緑の質をどのように担保するのかということが、大きな方向性として必要ではないかと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>「ほっといばらき もっと、ずっと」というスローガンがあり、まちの将来</p>

<p>委員</p>	<p>像で緑という言葉が出ていないから緑に関連しないということではなくて、茨木で暮らすことを目標とすると、ツールとして公園、農地、山林の緑が使われて暮らしを支えていくことになる。目標像は「ほっといばらき もっと、ずっと」で全てのまちの将来像を含めたものだという意見である。</p> <p>まちの将来像の実現に向けて緑の質をどう担保するかといった点について「みどりの大阪推進計画」ではどのように考えられているのか。</p> <p>「みどりの大阪推進計画」は平成 21 年に策定されて 5 年ほど経つが、計画策定時点ではそのような視点はあまり取り入れられていない。</p> <p>他の計画との整合、将来の人口推計や都市計画の土地利用のあり方等を踏まえながら、数字の置き方や緑の機能の考え方等は検討が必要だという議論をしている。</p>
<p>委員長</p>	<p>補足をすると「緑が果たす機能とは何か」ということである。委員の話に「存在機能」「存在効果」という言葉があった。緑は風を通すのでヒートアイランド現象に役立つ、都市環境の保全に寄与する、風景を美しくして景観を形成してくれる、また、生き物を育ててくれる、火災延焼、災害時の避難地として防災に役立つ、そして、スポーツ、レクリエーション、健康に役立つということで「使う」ことが利用効果として出てくる。存在することによって育まれる効果と、使うことで育まれる効果がある。</p> <p>我々は今まで、この存在効果と利用効果だけを注目してきたが、そうではなく、緑によって安全安心なまちが形成できる、文化交流を育むことができる、福祉が充実する、教育が充実するというように、本来の緑が目的ではなくて、緑の先にある生活像が緑によって育まれるという「緑の媒体効果」が注目されている。</p> <p>「みどりの大阪推進計画」でも機能の話として「緑の媒体効果」が言われている。まちの将来像に対して本当に緑を使っていただけなのか、どのような質を担保するのが、今、注目されている。</p>
<p>委員</p>	<p>他の計画との整合を考えると、総合計画や都市計画マスタープランの改定作業をされているので、「緑の基本計画」を議論する前に、茨木市の将来像としての人口や土地利用等のデータを見ておきたい。</p> <p>人口データがあるが、世帯・人口数とも増加傾向にあるのは平成 25 年度までの計画で、平成 37 年の計画を立てようとする、その推計はどうか。それによって 1 人あたりの公園面積も予測していると思う。</p> <p>あとは都市計画マスタープランの中で、市街化区域の拡大は基本的にないと思うが、今後の市街化区域について生産緑地なども含めてどのように考えているのか、市街化を促進するのか、ある程度調和型で緑を担保しながら適正なまちづくりを進めようとするのか、基本的なスタンスも教えていただけると議論</p>

	<p>がしやすいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>平成 25 年時点のデータは載っているが、10 年後を見据えると人口推計、世帯推計、それから線引きの方向性については情報が必要だと思う。総計等でのようにボリュームを出しているのか、きちんと見ていく必要がある。</p>
<p>事務局</p>	<p>都市計画マスタープランの関係では、一つは委員から話があった市街化区域への編入が計画されている。茨木市は幹線道路沿道一帯にまだ農地が残っており、そこを活力の向上に使う方向で現在進んでいる。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口の推計については、総合計画の策定で 10 年後、15 年後の人口推計をしている。人口減少社会と言われている中で茨木市の人口は現在も増えている。ただ、平成 27 年～37 年の 10 年間を見ると、ピークが平成 31 年で後は減っていくと予測されているが、平成 37 年で今の人口と変わらないと推計されている。世帯数は、平成 27 年と平成 37 年では変わらないという予測である。</p> <p>このような動きに対して、人口構造はかなり変わると予測されている。現在の高齢化率は約 21%であり、平成 37 年は 25.6%になると予測されている。生産年齢人口と年少人口はその後減っていくと予測されている。</p>
<p>委員長</p>	<p>そういう将来の状況を踏まえての検討になると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私の仕事場周辺では大阪府の予算で「是非、緑地帯にしてください」と言われたので了承し、今、整備が行われている。</p> <p>それで、維持管理は我々で行う約束になっているが、これを茨木市の税金で行うのは厳しいと思う。公園を広げるにも、活用させるにしても、ランニングコストがかかり人件費もかかる。行政は職員が減っているが物件費は上がっている。外部の労働力を使っているのだから、それを足すと大変な人件費になることを市民は知らない。</p> <p>そのくらい切羽詰まってお金の使い方を考えていかなければならないのに、単純に緑ばかりを増やすことができるのかが疑問である。また、それを増やすために、今、茨木市が行っているような、市民ボランティア等を活用していくのか。</p> <p>泉佐野丘陵緑地ではシルバーの方を集めて、パークレンジャーという公園づくりのリーダーを養成している。そういうことを両輪で行っていかなければいくら公園を広げても管理できず無駄になってしまう。そして、子どももいないので踏まれることなく余計に草が生えてくる。そうになると、行政に「早く草を刈れ」という人ばかりが増えてさらにお金がかかる。</p> <p>そうではなく「みんなで草を抜こう」「子どもに公園で遊んでもらおう」という人を育てていくようなことを同時に発信していかなければ、良い公園がで</p>

<p>委員長</p>	<p>きても 10 年も経つと、雑草が繁茂するただの空き地になる。そういうところも考えていただければと思う。</p> <p>ご指摘のとおりで、例えば「現行茨木市緑の基本計画の概要」に 1 人あたりの公園面積が年々増える数値目標が載っているが、平成 12 年時点はこのような時代だった。これは日本全体が成長していく時代の中で描けたことである。</p> <p>先ほど税金の話が言われたとおりで、各都市の行財政が縮小した中で本当に施設整備を拡大できるのか。選択と集中が言われるのは当然である。整備してもそのまま空き地になるようなものをどうするのか、その両輪で進めなければならず、そういうことがここで議論できればと思う。「本当なのか」ということを皆さんから出していただければ、充実した議論になっていくと思う。</p> <p>泉佐野丘陵緑地はこの 8 月末に開園した大阪府営公園だが、3 年ほど前から「どのような公園にすれば良いのか」ということについて、パーククラブという形で府民が集まって「こういう使い方をしたいから、このように整備する」という議論を続けてきた。公園は大阪府のものだけれども、運営は大阪府ではなく、パーククラブが利用者にサービスを提供し情報発信する、つまり、府民が府民にサービスをする形が考えられた。今までは大阪府の施設という形でサービスを受けてきたが、これからは府民が府民にサービスすることも必要ではないかと言われている。</p> <p>そういう視点で考えると、「社会潮流」のところに少子高齢化の進行やライフスタイルの多様化が挙げられているが、先ほど「もっと使ってもらえる」「都市魅力を向上させる」「地域間競争が始まっている」というワードが出され、その一方で「財政が苦しいのではないか」という意見も出ている。それはどこでも起こっていることであり、そのような中で選択と集中が言われていることを受けて、「もっと生活を重視してはどうか」という意見が出されたのではないかと思う。</p> <p>このように皆さんからいただいた意見を「社会潮流」の捉え方に反映し充実させればと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>安威川にダムができるが、新名神に近く里山も近いので、ダム周辺に公園をつくり人を呼び込むことも考えるべきだと思う。うまく観光地化して、茨木市だけではなく他府県からも人が来るような整備をし、それによって新しく雇用の場を創出し、収入を得られるようにする。収入は当然、茨木市に税金として入るので、財政から言えば、そういう方向が一つあるのではないかと思う。</p> <p>それから、都市公園の利用方法について、「健康」というキーワードで活用するという話をされたが、そういう視点で考えると、小さな公園も必要だが、新しくつくとすれば、健康づくりの設備、施設をつくる、あるいは併用する等が必要ではないかと思う。</p>

委員	<p>交流人口を増やそうということである。ダム周辺の観光開発については、他府県からいかに人を呼び込むかも考える必要があると思う。目玉となるアミューズメント施設をつくることまではしなくても、健康で観光開発をすることは考えられると思う。</p>
委員	<p>歴史施設やキリシタンの史跡、古墳群もあるので、緑をうまくつくって、それをきっかけに人を呼び込まなければならないと思う。</p>
委員	<p>広域の連携も必要だと思う。茨木市の中の関連施策や府との関連だけではなく、例えば北摂里山博物館の構想は、兵庫県の川西辺りから大阪の能勢など、日本一の里山と言われているところで広域に呼び込みをしている。すべて新名神の沿道であり、そのようなところと連携することも必要かと思う。</p>
委員	<p>独自で施策を打つのか、広域で連携して総体でキャパシティを増やすのかということである。</p>
事務局	<p>都市計画マスタープランの関連では、今、委員から挙げられたようなことをいろいろと書いている。一つは単に人口を増やすと言っても、定住人口だけではなく、交流人口も人口を増やす施策の重要な位置付けにあるという認識の下で、今、都市計画マスタープランの改定を行っている。</p>
委員長	<p>公園ができると交流が発生するということではなく、交流に対して緑がどのように寄与できるのかということだと思う。</p> <p>他府県からここへ来られる、また山側の方が来られるだけではなく、人が山の方へ行くという話があった。</p>
委員	<p>先ほど緑の質の話が出たが、森林にもいろいろな質があり、「緑の特性」として山林について書かれているが、図は緑一色に塗られている。</p> <p>府内の山林を比べると、茨木は人工林が 20%以下で広葉樹が多く、雑木林の多い里山があるのが特徴的である。能勢の話が出たが、能勢よりも茨木は住宅に近いという特徴があり、都市部なのにそのような里山が多く残っていると言える。高槻は人工林が 50%以上でスギ、ヒノキが多く、箕面は急斜面が多いので、どれが良い悪いということではなく、それぞれの良さがあり、茨木は、広葉樹林を中心とした景観や、防災面を含めた多様な植物のある里山が特徴として自慢できるところではないかと思う。</p> <p>一方で、そういう広葉樹の里山は、元々地元の方が薪や炭を利用しながら維持されてきたわけであり、ここ 30~40 年の間に薪や炭が使われなくなった影響が段々出てきて、今、ナラ枯れが起きている。資料には松くい虫の被害の問題が挙げられているが、松はほとんど枯れてしまって、昔、薪などに使って</p>

<p>委員長</p>	<p>いたコナラやクヌギの木が太くなり過ぎて、虫の影響を受けて立ち枯れているというのが安威川ダム予定地の斜面である。茨木亀岡線から見るところも多数枯れている。</p> <p>したがって、広葉樹林、里山が特徴ではあるが、一方でその広葉樹林もよく見ると機能が失われつつあり、遠くから見ると緑でも、近くへ行くと蔓に覆われて木が倒れているという現状もある。そのように山にもいろいろな質があるというのが現況と課題である。</p> <p>ナラ枯れは、特に北摂を中心に重要な問題で、クヌギ、コナラは樹齢 30 年を超えると切るのも難しくなるし、切る担い手もないという問題がある。</p> <p>私もつい緑一色で塗ってしまうが、どこまで個性、特性を出していくのか、人工林、里山をどのような質の緑にしていくのか、樹林の質にしていくのかということは大事な課題だと思う。</p> <p>箕面市では山なみ景観保全地区を設定し、市街地の山麓部の緑を景観として保全している。箕面市もナラ枯れやマツ枯れ等、間伐されなくなったことによる植生の劣化が激しいために、山麓保全ファンドをつくって、新たな担い手となる市民活動や、山林所有者の管理の活性化等に取り組んでおり、同じような状況にあるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私が茨木を好きな理由の一つは、大阪、京都、神戸に近い一方で、自然が見たくなればすぐに田舎にも行ける場所であり、行くとほっとする。</p> <p>そのため、あまり開発されない緑の田園地帯を楽しみたいというのが個人としての本音だが、それでは何もかもストップしてしまうので、両方を兼ね備えるように考えなければならないし、それを考える場ではないかという認識を持ったための第 1 回の会議だと思っている。</p> <p>もう一つは、いろいろなところで植樹されて、緑化募金も行われているが、冬は街路樹が伐採され、緑のないまちになってしまう。外国ではそこまで伐採はしていない。11 月にミネアポリスから来られた方をお連れした際に「この木は全部枯れているのですか」と言われた。日本では冬に伐採することが一般的だが、考えてみると冬の間 4~5 ヶ月間も緑がなくて、外国の人には枯れているように見えることを知って驚いた。これから勉強したいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>市街地のすぐ後ろに山があり、田園に近いコンパクトなまちであることは、茨木市にとって利点である。</p> <p>市街地の強剪定についてはいかがか。</p>
<p>委員</p>	<p>街路樹の剪定については、技術的には十分に育てることができるし、行政は「切らずにもっと育てたい」と全員思っている。切るのは市民からの 1 本の電話と、予算がないという 2 つの理由からである。</p>

<p>委員長</p>	<p>先程お話があったように、コミュニティの中で「木が鬱陶しい」「掃除するのが面倒だ」と思う人は1人でも「切れ」という電話をする。「切ってほしくない」という方はわざわざ電話をしない。木を守りたいと思っている方の意見をきちんと自治会などでまとめて、公式に市に届けておくことが必要である。</p> <p>つまり、どのようにして緑を育てていくのかということ、市民がいろいろな単位で持つておくことが大事である。これはマネジメントの方法の問題で、プロのマネジメントと合意形成などを含めた市民によるマネジメントをきちんと規定するべきである。時間はかかるが、それをしていかなければ、緑をつくってもつまらない緑ばかりになってしまう。これは非常に重要なことだと思う。</p> <p>それだけ我々は恵まれている。ここは温かく植物は一度切ってもまた生えてくる。寒いところではそうならないので、植えた1本を大事にする。</p> <p>一方で植え過ぎてしまい、邪魔な木が目立ってしまうところもある。我々が樹木の美しさを忘れてしまったところもあると思う。「緑色があればそれで良いのではないか」と思い安易に切ってしまう。</p> <p>私は、あのように枝のなくなった木を残すくらいなら、逆に幹から切った方が良いのではないかと思う。減らしていくことも重要である。どのような樹木管理、公園管理をすれば良いかは、とても大事なことだと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>茨木市はソフトとハードをうまくリンクさせることが下手だと思う。前市長の時に、茨木市地域コミュニティ基本指針が打ち出されが、行政は縦割りのままである。行政の縦割りをもう少しうまく横割りにして、地域の意見に対しても「それほど地域云々を言うのなら、あなたたちも責任があるのだからやりなさい」と行政から強く言えるように導いていかなければならないと思うし、そういうことがあっても構わないと思う。その代わりに我々も「このようにしてほしい」と言うし、地権者もしっかりと意見があると思う。片方だけで進んでしまうところに難しさがあるのではないかと思う。</p> <p>例えば、銭原にキャンプ場があるが、もう少し開けた活動の仕方をすれば、もっと山に人が呼べるようになると思う。今は「子ども会しか使えないのではないか」「子どものいる人しか使えないのではないか」という印象で、大人だけでも気軽に行くことができるという宣伝もない。横のつながりがなく、縦だけで終わってしまうので、それをソフト面からもしっかりとつなげていくと、発展しやすいのではないかと思う。</p> <p>我々は行政が悪いとは思っていない。放置している市民が悪い。その点に仕掛けを投げかけていくと面白いのではないかと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>緑の基本計画の担当課は公園緑地課となっているが、農地の話も、山林の話も、地域自治の話もあり担当課だけでは収まらない。そこで、横につなぐ“つ</p>

委員	<p>なぎ役”になるのが、本来の目的だと思う。</p> <p>もう一つはごまかさないこと。八方に良い顔をするのではなく、当然、夢は追い求めたいと思うが、ごまかさずに「できること」と「できないこと」をきちんと議論して、書き込みができればと思う。</p> <p>それに関連して、少し実務的なことを話したいと思う。</p> <p>当初の緑の基本計画は、書いてあることが 10 数年後に達成できているのか、できていないのか、それすら分からないような抽象的な表現が多いような気がする。</p> <p>そこで、新しく改定される時は、もう少し市民が見て「これはよくできた」「これはできなかった」「なぜできなかったのか」ということが分かるような基本計画にした方が良くと思う。</p> <p>緑の基本計画を策定し始めて 20 数年になるが、最近は分かりやすい表現で分かりやすい施策の基本計画が全般的な評価を受けているように思う。</p> <p>大きな夢の計画は当然必要だが、それを受けて「このようなことをしたい」とか「市民ボランティアを活用したい」等、いろいろな話が出てくる。ただし「ボランティア」という言葉だけで終わってしまうと、漠然としてしまうので、「この地区」とか「この路線」とか、一步踏み込んだ基本計画にしていただければと思う。</p>
委員長	<p>一つは、プランを作って、実行して、チェックをして、また改定をするという進行管理をどのようにしていくのかということ、作って終わりではなく、どのように検証しながら進めていくかという仕組みが要するということである。</p> <p>もう一つは、平成 12 年の時に立てられた施策が「達成されたのか」「達成されていないのか」という検証作業をしていただきたい。達成できなかったことの中には、市民からあまり要望がなかったので進まなかったところもあるかもしれないので、次のアクションを考える上で、何がネックになっているのかを見つけることも含めて検証しなければならないと思う。</p> <p>あとはわかりやすさだが、計画を作るとそれを目掛けて皆が動くというのは、右肩上がりの時にはできても、今は何が起こるか分からないのでその計画には分からないことも含まれていると思う。その分からないことが分かるようになる、できるようになるのは、どのような対応になるのか、不確実な部分があることも含めて、分かりやすい計画を作ることができればよいと思う。</p>
委員	<p>平成 12 年から計画が進行されているが、当初の計画の中で具体的に他市と比べて成果の上がったこと、自慢できることは何か。</p> <p>我々は、茨木市は遠目にも北摂の山に緑が残っているし、ハイキングに行っても「森林関係の方に頑張っていて、これだけ自然が残っている」と思っているが、先ほど実際はそうではないというお話があった。</p>

<p>委員長</p>	<p>そういう中で「ここはよくできたのでさらに続けていく」とか「この部分は実施しない」とか、俗に言う重点志向を取らないと、財政的にも数多く並べられた項目を実行できるわけがない。バランス良く進めるというのはわかるが、その中でも重点を置かなければならないと思う。</p> <p>したがって、キャッチフレーズの「緑を育むやさしい都市づくり」を具体的にイメージできる施策を打ち出していただきたいと思う。先程言われたような「健康」や「コミュニティの場」「交流を高めるような公園づくり目指す」等、何かあるのではないか。</p> <p>計画が総花的なのは、とにかく漏れがないようにしてきたからである。その中でも自慢できることを挙げてほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>緑の基本計画は平成 12 年に策定されたが、この計画に則った部分で、自慢できる部分はほとんどないのが現状だと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>本市は、例えば、調整区域では大規模開発がほとんどないので問題はないが、市街化区域で大きな開発が発生した場合、地区計画の策定を事業者をお願いして都市計画決定をしている。お陰で本市の地区計画策定数は策定中を含み 34 と、大阪府では大阪市を除いて 1 位です。</p> <p>地区計画を定める中では緑化率などを定め、条例での縛りもあり、緑を増やす施策を意識して打ち出す。景観に配慮した形で周辺の住環境にも配慮し、高さの制限も都市計画で決定する。そういう中でも一定の緩和をする時は、必ず緑の分を上乗せして緑を取る等景観計画も定めて、一定の道路に面したところでは建物を一定後退して建て、後退したところに緑を植える形で、常に制限をかけて緑をセットするように指導している。</p> <p>したがって、周辺の市町村と比べて、茨木市は市街地の中にかかなりの緑があり、そこが他の市と違うところではないかと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>緑がなくなっていないということか。</p>
<p>事務局</p>	<p>増やす施策ということで、「単に開発だけはさせない」「開発は必ず緑とセット」という指導をしている。ただ、点で緑があっても人は緑を感じることができないので、一定のボリュームで緑を増やしていくような施策を打っている。</p>
<p>委員</p>	<p>「(4)市民参加の計画」の「緑化推進体制づくり」の中に「①花と緑のまちづくりの推進」と書かれているが、こういうことは、その町内に住んでいる市民と一緒に取り組んでいくべきだと思う。</p> <p>そういう視点から、いつも残念だと思うのが、阪急茨木市駅と JR 茨木駅を</p>

<p>委員長</p>	<p>結ぶ中央通に植えられている花が枯れていることである。あのように枯れた花を見るくらいならない方がましである。しかし、一度立てたポールは 10 年くらい壊れないので、その間、毎年植えられて毎年枯れることになる。市の予算を使って花を植えて、1 週間くらいはきれいだが、すぐにきれいなのは 3 軒に 1 軒くらいになってしまう。</p> <p>これも小さな緑化の 1 つであれば、委員会でいろいろと討議をして、市民にも「小さな緑も育てましょう」と呼び掛けてみてはどうかと思う。</p> <p>花を植えて、枯らさずに育てることが求められているにも関わらず、市民に花の種を渡すだけで事業が完結した気になっている行政は、茨木市だけではない。市民参加は非常に重要だが、市民参加でどのような取り組みをしていくのかという、次のことを考えなければダメだということである。</p> <p>また、自慢できることは追々、検証作業も含めてやっていただきたいと思うが、その一方で、木を 1 本植えても目立たないのも事実である。ホールやインターチェンジができるというと、目に見えて生活が便利になるが、木を 1 本植えるというのは地をつくっていくことであり、奥ゆかしいことなので、市の方は言えない。そのような中でも西河原公園ができたり、防災公園できたりといった取り組みはきちんとされており、次回にはそれらを検証した結果を話していただきたいと思う。</p> <p>話題は尽きないが、次回、本日いただいた意見を踏まえて、もう一度、現状と特に課題について、アンケート調査結果も含めて意見交換したいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事（２）アンケート調査について （資料 12 について説明）</p>
<p>委員長</p>	<p>これは、いつ実施を予定しているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>来年 1 月の実施を予定している。</p>
<p>委員長</p>	<p>一つひとつの設問の細かなところまで説明ができていないので、分かりづらいかも知れないが、お気付きの点があればご発言をお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>元茨木緑地や北部の農地に限定して尋ねられているが、政策的な意図があると思うので、それについての説明をお願いします。</p>
<p>委員長</p>	<p>市民ワークショップで、他の都市計画マスタープランや総合計画の中でも、元茨木川緑地については「茨木市民にとっての誇り」と捉えられている一方で、開設から 40 年経過する中「少し鬱蒼としている」「もう少し芸術的に、文化的に使えないか」という要望が多数上がっている。それに対して、元茨木</p>

	<p>川緑地のマネジメントやメンテナンスについては、いつ予算が付くのか分からないが、骨格として大事だろうと考えている。</p> <p>北部の農地、山林については、当然、農家の方や山林所有者が農業をし、山林を管理することが前提ですが、援農ボランティアや、そこを使った自然環境学習や生態系研究等、新たに関わる方々が増えている。したがって、来年度の予算か、次の予算なるのかは分からないが、そのような人たちをどのように支援していくのか、どのように広げていくのかということも、重要な課題ではないかということで質問していると思う。</p> <p>この会議の中で、地域制緑地の充実まで行くのかどうかはまだ不確定だが、何らかの手立ては要るだろうと思われる。地域制緑地で応えるのか、担い手の育成で応えるのか、何らかの助成制度で応えるのかは、これからの議論になると思う。</p>
委員	<p>山林の整備・管理について「誰が」「どのような形態ですか」という質問のようだが、その前に「森林がどのようにあってほしいか」という質問があって、それから整備という順だと思う。いきなり整備と言われても、そもそも整備を必要と思っている人がいるのか、森林がどうあってほしいのか、例えば景観のためとか、環境のためとか、そういう質問が必要ではないかと思う。</p>
委員	<p>全般を通して大切なのは、やりたいことを訊くことだと思う。これから重点化していくわけだが、これまでのように行政が重点化することを書いているだけではどうしても無理が出てくる。協働を前提に、市民にしたいことを訊くことが必要である。</p> <p>重点化も、一番効率的な目玉を選ぶということではない気がする。これをすれば次につながるという、シナリオの重点化をしていくことが、これからの協働型の事業では必要だと思うので、そういうことを全体的に訊くのか、山林や公園について具体的に訊くのか、いずれにしても、したいことをきちんと確認することが、委員会の議論にも役立つと思う。</p>
委員長	<p>「公園ですか」「農地ですか」「山林ですか」という感じなのか。</p>
委員	<p>「何のために」という質問である。今までは緑が好きだから公園で花壇を植えるということが多かったが、「子どもたちのために行う」とか「美しさ、芸術のために行う」とか「スポーツの合間ならできる」とか「〇〇の立場なら行う」等、そのようなことも訊くことができればよいと思う。</p>
委員長	<p>全体を通して「何のために」という質問と、目標像は空間的形態なのか、関わり方の形態なのかということところがきちんと整理できているのかどうか、もう一度事務局に見てもらい進めていければと思う。</p>

委員	アンケートについて、他にご意見はないか。 (意見等、なし)
委員長	アンケートは少し不完全燃焼だが、いただいた意見を元に修正して示していただきたいと思う。 緑の基本計画については、次回、きちんと現況と課題について議論できればと思う。毎日の生活の中でお気づきになられた点、またその他、情報提供があればよろしく願います。
委員長	7 閉会 これを持って、第1回茨木市みどりの施策推進委員会を終了する。
事務局	次回の委員会の日程は、3月を予定している。 <p style="text-align: right;">以 上</p>